

令和6年度 大阪府立布施工科高等学校 第3回学校運営協議会 議事録

日 時 令和7年2月25日（火） 15:30～16:30

場 所 本校同窓会館

協議会委員

根井	加奈美	東大阪市立小阪中学校	校長
川野	充信	八尾商工会議所	事務局次長
増本	哲男	東大阪商工会議所	常務理事 事務局長
正木	猛司	同窓会長 正木建設株式会社	代表取締役会長
東谷	実嘉子	令和6年度 PTA	会長

事務局

川崎	哲也	教 頭
加藤	孝	事務長
佐伯	陽介	首 席
千田	充弘	首 席
小池	清隆	首 席 兼 1学年主任
笹山	秀樹	機械系長
杉本	岳久	電気系長
渡邊	千佳	建築設備系長
芦田	和光	教務部主任
近藤	智也	教務部 ICT 主担
前田	卓哉	教務部 PTA 顧問
藪田	大輝	生徒支援部主任 生徒指導主事
渡邊	里子	生徒支援部 保健指導主事
小島	大亮	生徒支援部 生徒会
河内	康朗	進路指導部 進路指導主事

1 学校長挨拶

- ・1年間を振り返り
- ・東大阪みらい工科高等学校の開校に向けて

2 協議事項

1) 令和6年度 学校の取り組みと評価について

1 確かな学力と社会に向かう力を育成する学校

- 教科・学科において観点別評価にあわせた授業内容の改善を行った。生徒の学校教育自己診断アンケートで、「成績評価には納得している」が肯定率 91%であった。
- 地域産業との連携を強化し、デュアルシステムを実施した。企業 17 社に生徒 40 人が取り組んだ。
- 企業連携による出前授業や企業経営者による講演会を実施した、生徒の就職内定率 100%であった。
- 資格・検定への挑戦を促し、各種コンテスト等への参加を推進する。合格者は 266 人で目標には到達しなかった。次年度に向けて、生徒数が減少するが、資格検定への挑戦を促していく。

2 生徒一人ひとりを尊重し人間性豊かなエンジニアを育成する学校

- 学校生活において、生徒との信頼関係に基づいた生活指導に努め、学校教育自己診断アンケートで、「学校生活で先生の指導は納得できる」生徒の肯定率 83%、「生活指導の方針に共感できる」保護者の肯定率が 85%であった。
- 学校での生徒の居場所づくりを推進し、SC・SSW との連携しながら課題の早期発見に努めた。生徒の学校教育自己診断アンケートで、「担任の先生以外にも、悩み事などを相談できる先生がいる」との肯定率は 78%であった。今後も継続して、居場所づくりを実施していく。
- 生徒会活動を支援し、生徒全員が主体的・自律的な活動ができるようにするについては、生徒の学校教育自己診断アンケートで、「学校行事は楽しい」で肯定率 90%であった。次年度 1 学年減少するが、生徒が主体的に行動できるよう工夫して学校行事を進めていく。

3 安心安全で魅力ある学校について

- 安全安心な高校生活のためのアンケートを実施するとともに、支援人権相談会議を定期的で開催し、生徒の状況把握を行った。生徒の学校教育自己診断アンケートで、「先生は、いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」項目の生徒アンケート結果は肯定率 91%であった。

2) 学校の取り組み

- 教務部からは、研究授業を年 2 回実施し、より良い授業内容に向けて改善方法

の取り組みを行った。

- 生徒会からは、本年度の行事において、生徒の肯定率が高く次年度に向けて1学年が減少する中でも在校生が意欲的に取り組めるように、3月にはスポーツ大会を実施し学年の親睦を図る予定。
- 各系からは、企業連携の取り組み、資格・検定の取得状況について報告を行い、次年度に向けても本年度と同様の取り組みを実施していくことを説明した。
- 学年が中心となり「命の大切さを考える」人権研修を実施。年間を通して、人権に重点を置いてホームルーム活動を実施できた。
- 本格実施したデュアルシステムについて、企業の協力をいただき、キャリア教育を通じて就職につなげることができている。工科 PR 活動（ものづくりワークショップ）に参加した生徒は自身の成長に繋がっている。次年度は万博の実業系高校の出店活動に参加していく予定。

3) 委員からのご意見、感想等

○「いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」ことへの生徒の肯定的評価が大変高く、子どもたちが学校生活において充実していることが表れている。具体的な取り組みは、どんなことをされているのか

→時間割に支援人権相談会議において、学年主任、教育相談係、人権係、SSW で生徒の情報共有、課題に対する対応を実施している。

○学校が楽しいと感じている生徒が多く素晴らしいと思う。楽しい学校には遅刻もせず登校することに繋がっていると思うので、日ごろの先生方の取り組みの成果でだと思う。

○学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は納得できる」1%下がっているが何か要因はあるのか。

→目標とした85%には達しなかったため評価を「△」としたが、80%を超えているところでの1%については数値上の変化であると考えているところ。

○次年度からは後輩がいない状況となるので、生徒目線でのケア、フォローをしていてもらいたい。2学年しかいないことをプラスの要素として提供して欲しい。

→次年度に向けては、学校行事を通して生徒が一つになるよう働きかけ、学校全体で盛り上げて行事など取り組んでいきたいと考えているところ。

○インターンシップの生徒がデュアルシステムにも来てくれた。取り組みも良く、遅刻

数などが少ないのも納得できる。

○資格検定への取り組みは、やはり吸収しやすい高校生の時期にしっかりやることが大事である。

→生徒への働きかけをして、資格試験を挑戦することを推進していきたい。

○生徒たちの思い出に残るような、楽しい生徒会活動をしてもらいたい。

○令和7年度の新入生はなく、生徒、教員も減少していく中で、先生方にはより一層生徒に寄り添ってもらいたいと思う。

○ジュニアマイスターの受賞者に対して PTA から副賞を提供する予定。これを励みに子どもたちが意欲的に、資格取得に取り組んでもらえたらと思っている。